

研究・研修だより VOL. 1

お届けします ホットな話題

全国ではじめて保育所・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えて誕生した「京都市子育て支援総合センター こどもみらい館」。「相談」「研究」「研修」「情報発信」を4つの柱に据えて、共同機構としての取組を進めています。

この情報誌は、主に「研究」と「研修」の動きをタイムリーに紹介するために、新たに発行するものです。保育士や幼稚園教諭の皆さんの生の声も載せていきたいと考えておりますので、ご愛読いただきますようお願いいたします。

新たに3つの研究プロジェクトを立ち上げます

今年、開館5周年を迎えるのを機に、新たに3つの研究プロジェクトを発足することとしました。

テーマは、「乳幼児子育て支援研究」「就学前教育研究」「地域と結ばれた事例研究」。今後、この「研究・研修だより」を通じて状況報告をしてまいります。

共同機構研修会の概要をいち早くお伝えします

保育士や幼稚園教諭の専門性を高め、資質の向上を図る「共同機構研修会」を今年も5月から実施しています。

「研究・研修だより」では、講義の概要をとりまとめ、随時紹介してまいります。

子育てわくわく 安心のまち・京都の創出に向けた論文を募集

こどもみらい館では、五周年記念事業として、保育士・幼稚園教諭の皆さんをはじめ、広く市民の方々から、子育てに関わる今日的課題をテーマに、論文を募集することとしました。

今後、募集要項をまとめ、発表いたしますので、奮ってご応募ください。



年間42万人が来館。今年12月には来館者数が200万人に達する見込みです。

開館五周年 第二創業期を迎えたこどもみらい館

「専門職に求められる、ともに育てる保育とは」



平成16年5月17日、東京大学大学院の汐見稔幸教授を講師に迎え、今年度第1回の共同機構研修会をこどもみらい館と京都市私立幼稚園協会との共催で開催しました。参加者は215名。提出いただいたアンケートには、もう一度聞きたいとの声が多く寄せられ、実り多い研修となりました。以下、要録を紹介します。

はじめに

今日のテーマには、「保育者の専門性」「ともに育つ」「保育（の質）」という、今本当に大切なキーワードが含まれています。

保育というものがどういう意味で専門職なのか、自覚をもっていないと、ただ子どもを預かっているだけということになります。また、子どもを育てる中で、親も保育者も、「ともに育っていく」ということが求められています。そういうことを踏まえながら保育の専門性ということを考えていきたいと思います。

保育者の専門性とは

専門職とは、高度な知識と技能をもち、必要な訓練を受けて、資格を手に入れて行う仕事のことです。

保育士資格が国家資格になり、専門職として方向づけられたのですが、保育士、幼稚園教諭は本当に専門職といえる状態でしょうか。

医師の場合、1つの症状を見て、多くの疾病の可能性を考える能力や薬を処方する能力などが、専門性の代表的な内容になります。

保育の仕事の専門性は、医師など他の専門職に比べて、一般の人にはわかりにくいのですが、実はたいへん高度です。

保育の実際場面では、たとえば、問題がある子どもを発見する力、その原因について多くの可能性を考える力、それに対してどう接し、保護者にどう働きかければよいか考える力、そして実践に移していく力など多くが専門能力になります。また、アスペルガーやADHDなどについても、しっかり説明できる力が必要とされます。さらに、日ごろの保育において、「子どもの個性や状態を深く理解し、子どもとの距離を刻々考えて、的確に判断して臨機応変にかかわっているか、子ども自身が達成感を感じ、自分に対する信頼感がもてるように育てているか」ということを反省する力も、専門性の内容になります。

保育の質

実際、保育には無限の差があります。その差は日々はわからなくても、積み重ねの中で、生きるって楽しいと思える子どもが育つか、つまらないと思う子どもが育つ

かが決まるほど大きいものです。

保育にかかる費用は80パーセント以上が人件費であり、コストダウンはしばしば人件費に來ます。人件費のダウンは、保育の質の低下を招く可能性があります。ある自治体独自の認証保育所等は、今より安く作るというもので、かなり企業が参入しており、利潤追求の対象ともなっています。そのことによって、専門性の低下がおこることがないよう国民としてしっかり見すえなければなりません。

保育について本音で語り合おう

専門性を高めるためには、実践を文字にして、保護者や他の保育士、関係する人々に情報を公開していくことが大事です。すばらしい保育でも、その人しかできない名人芸で終わらせず、保育を科学するために、他者にもわかるように実践を書いていく必要があります。

また、保育者同士が事例検討会をして、本音で語り合うことも大切です。たとえば、園の全員がちょっと気になる園児のことを書いてみる。担任は子どもを厳しくみる傾向があるのですが、様々な視点で出された他の保育者の意見によって、その子どものよさに改めて気付くことができ、様々な発見ができる。また、子どもの様子をビデオで撮ってみんなで検討し合うことも必要です。そんな取組の中で保育者同士が成長し合い、得意分野を生かし合あえる、プロとして主張できる保育者集団になってほしいと思います。

ともに育てるということ 子育て環境の変化

現在、人類始まって以来ずっと変わらなかった「子育て」の方法が、大きく変わり、人類は歴史的に第2段階に入ったといえます。その変化は、子どもを生み育てにくい方向に向かっているように思います。今は一人平均1.3人しか生まなくなりました。

昔は、子どもは、車も通らない豊かな自然環境の中で、異年齢のたくさん子どもたちが群れて遊ぶ「地域社会」に“放牧”され、その中で、体力、しなやかさ、ストレス耐性、集中力、挑戦する気持ち、自主性、社会性など人間の能力の基礎を身につけることができました。親は、安心して地域社会に、昼間“放牧”し、夕方“厩舎”に戻すだけでよかったのです。また、地域には子どもを受け入れてくれる他の家も多く存在していました。

今は、そのような豊かな子育て環境がない。車優先で、子どもの遊び場やたまり場、自然環境も少なくなっています。昔のように、親は子育てを支えてもらえることも

なく、子どもは心を癒す場所が地域にない。今の親は、家庭でのしつけなどだけでなく、昔は放っておいてもいつのまにか地域社会で育ったものも含め、すべてを育てなくてはならない、とてもしんどい状態になっています。

東京オリンピックの頃以降に生まれた世代の親たちは、小さい時分から、受験勉強などの競争社会の中で育ち、間違ふことに強くストレスを感じてしまう傾向があります。また、コンビニに象徴されるように、面倒なら買えばよいという、手作り文化に重きをおかない消費社会の中で育ってきています。そのため、すぐに成果の上がない子育てにイライラしたり、子どもの育ちにも無意識に到達目標を作ってしまう、思い通りにならないことに傷ついたりしてしまう。そして、思うように子育てができない自分も評価されていると感じてしまう。今の親はそんな重荷を何重も背負わされているのです。

これからの保育者に求められること

虐待の悩みを打ち明ける親に、ある保健師が「そんなこと誰でもしてるわよ」と、相手の状態を的確に捉え、正論を言うのではなく、その親の気持ちに寄り添って対応することで、救ったことがあります。もちろん、場合によっては、指導することも、厳しく言うこともあるでしょうが、たった一言で親を救うこともできれば、奈落に落とすこともできるのが子育て支援です。カウンセラーでもできないことを、保育者がしていく必要性が求められています。

「今の親は情けない」ではなく、「今、親するのって大変だよ」という、共感するまなざしが必要になってきます。神経質な親、アドバイスがほしい親など、いろいろなタイプの保護者がいます。様々なタイプの親が出てきて当たり前前の時代であることを認識して、それぞれの親のニーズを臨機応変に捉え、相手の状態を考えて、的確に伝えていくことが、保育者に今求められています。保護者へのかかわりや援助も、様々な事例を出し合い、保育者同士、学び合っていくことが大切です。



<講師プロフィール>

1947年大阪生まれ。東京大学教育学部卒、同大学院博士課程修了。現在、東京大学大学院教育学部研究科教授。同、教育学部附属中等教育学校校長

「親育ち・子育てと子育て支援」をテーマに 子育てワークショップを開催しました

平成16年5月22日、子育てサークル・NPOと共催で、親支援の必要性などを学び、話し合うワークショップを行いました。

子育てサークルや保健所、子ども支援センターなど子育て支援機関等から58名の参加があり、基調講演では、京都市保育課の下岡眞子氏から、市営保育所子育て支援事業参加者のアンケートからみた親子の状況、親が成育した社会状況、保育所の子どもの姿・親の姿、子育て支援事業等について説明がありました。

参加者によるグループ・ディスカッションでは、情報を必要な人に届ける方法、地域での親子の居場所、親の自主性を育てる支援、子どもを大切にする社会等について、話し合いました。



参加者のアンケートでは、「親世代の状況がわかり支援の必要性を理解した」「一歩を踏み出せない親への支援と地域のネットワークが必要」等の意見が寄せられました。

そして、このような様々な立場による話し合いを積み重ね、子育て支援の研究と交流の場を継続していくことを確認しました。

INFORMATION

□ 共同機構研修会の講義ビデオ貸し出します

今年から、共同機構研修会の講義をビデオに収録し、講師の許可をいただいたものについては、保育所・幼稚園での研修用に貸し出すこととします。

第1回の汐見稔幸先生の講義ビデオは、7月1日から貸し出します。詳しくは、こどもみらい館事業課へ。

□ 「研究・研修だより」のネーミングを募集!

「研究・研修だより」はこれから4ヶ月に1回程度発行してまいります。より親しまれるよう、素敵なネーミングを付けてください。「研究・研修部会」で審査の上、優秀賞1点、佳作3点を選び、優秀賞には副賞として図書券3,000円、

佳作には図書券1,000円をお贈りします。

ネーミングと、応募者の氏名と保育所・幼稚園等所属名、連絡先電話番号を記入して、はがき、FAX、Eメールのいずれかでこどもみらい館事業課へ御応募ください。締切りは平成16年7月26日(月)です。

□ 今年度2回目以降の研修講師の方々

6月11日(金) 藤森平司氏(せいがの森保育園長)

9月11日(土) 帆足英一氏(ほあし子どものこころクリニック院長)

10月29日(金) 西川由紀子氏(華頂短期大学助教授)

12月6日(月) 丸山美和子氏(佛教大学助教授)

なお、7月10日(土)に予定しておりました国立教育政策研究所次長の小田豊氏の講演につきましては、講師のご都合により、延期とさせていただきます。日程等は改めてご連絡いたしますのでご了承ください。

編集後記

梅雨空が続く季節。先日、日本経済新聞のNIKKEIプラス1「なんでもランキング」で、雨の日にお薦めの遊び場が紹介されていました。関東の1位は「三鷹の森ジブリ美術館」。関西では「キッズプラザ大阪」に続いて、「こどもみらい館」が堂々2位に選ばれていました。職員一同思わず拍手。今後も魅力あふれる子育て支援の中核施設を目指しますので、「研究・研修だより」ともども、どうぞよろしく。(T. O)

発行日 平成16年7月1日
発行者 京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075) 254-5001
Fax (075) 212-9909
Eメール kodomomirai@kodomomirai.or.jp
URL http://www.kodomomirai.or.jp